

## 実験実施の背景

- ・交差する道路の幅員が同程度（両路線とも2車線の幅員が $W=6.0m$ ）
- ・1,500台/日程度の交通量（6割が大型車両）
- ・一時停止義務違反などによる出会い頭の重大な事故が発生

## 検証項目

- 通過速度抑制
- 危険挙動抑制

## 今回の実験内容及び結果

【実験区間】 1級市道花作平山線と市道平泉線の交差点

【実験内容】

- 仮設ラウンドアバウトの設置

速度調査

交通挙動調査

アンケート調査

【実施期間】 平成28年11月27日（日）～平成29年2月28日（火）



図-2 交差点の様子



図-3 仮設ラウンドアバウト

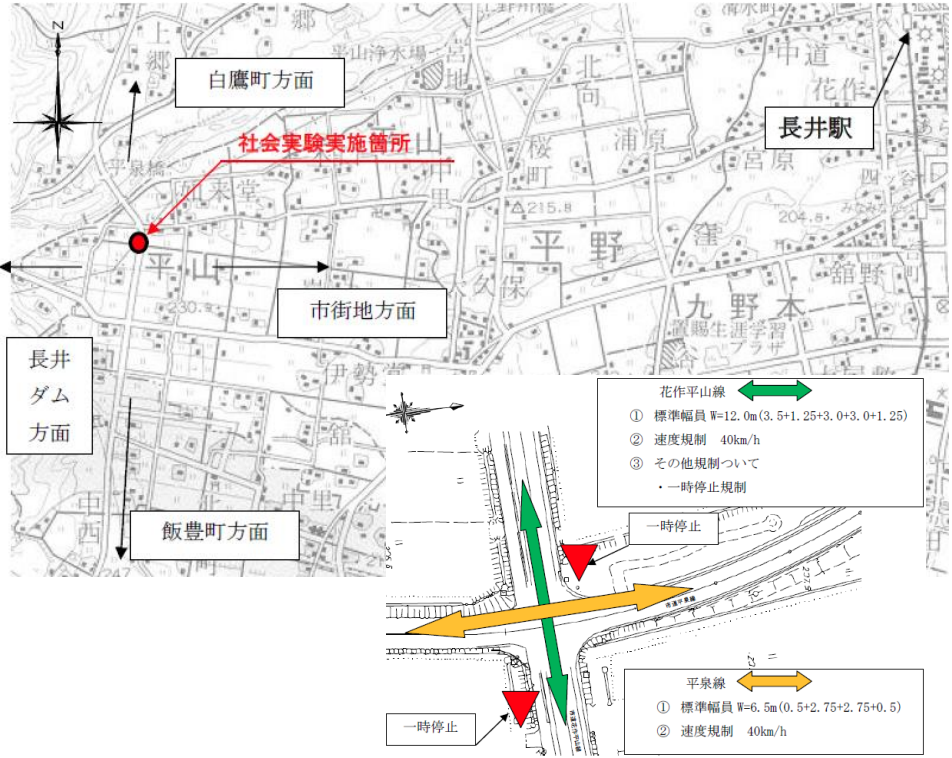


図-1 位置図及び交差点平面図

## 検証結果

### 通過速度抑制(速度調査)

- ・主道路の走行速度が実験前に比べて30km/h程度抑制

### 危険挙動抑制

- ・安全性の向上を確認  
(安全になったという回答多)
- ・重大事故に直結する危険挙動の発生は確認されず
- ・右折・左折車両相互が分離され、円滑にすれ違いができることを確認

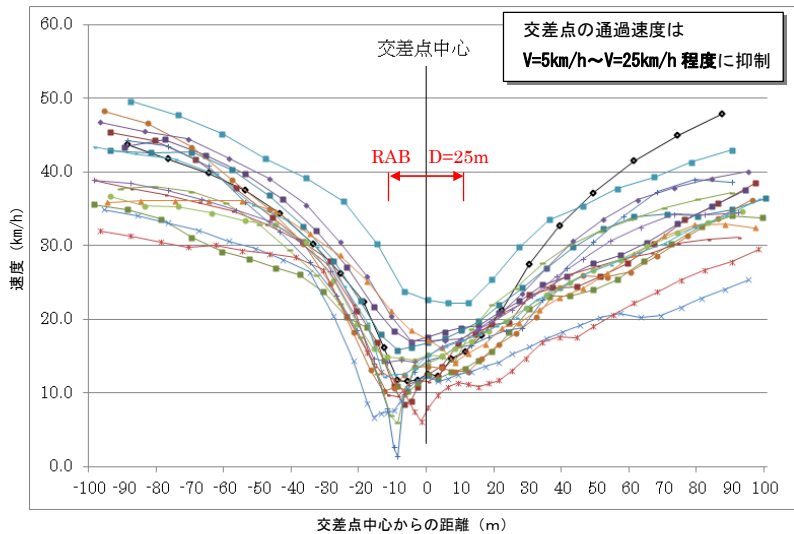


図-4 主道路の走行速度

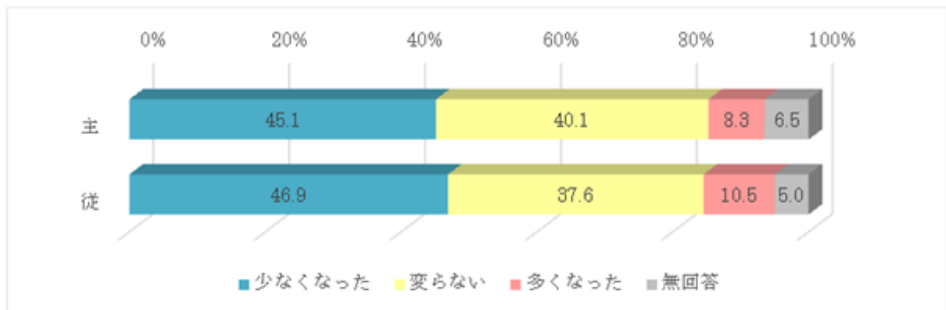


図-5 交差点内で車両同士が衝突しそうな機会



図-6 交差点内での追越し状況



図-7 右左折状況

## 実験後の展開、明らかになった課題等

### 交通挙動調査

- ・エプロン(仮設時ゼブラ)を踏んで直線的に走行する小型車両が多く見られた
- ・通行方法の周知・徹底が難しい
- ・吹雪時の視認性

### アンケート調査

- ・通行方法の周知や、地吹雪時におけるさらなる安全対策